



Hewlett Packard
Enterprise

HPE OneView for VMware vRealize Operations v2.1 ユーザーガイド

摘要

このガイドでは、HPE OneView for VMware vRealize Operations をインストールおよび使用してサーバーのパフォーマンスを監視するために必要な情報について説明します。このガイドは、OneView が管理するサーバーおよびインフラストラクチャのシステムパフォーマンス、キャパシティ、および構成情報を監視および管理する管理者を対象としています。

部品番号: 876881-191
発行: 2017 年 3 月
版数: 1

目次

はじめに.....	4
インストール.....	5
OneView for VMware vRealize Operations のインストール.....	5
注意事項.....	10
HPE Networking ツリー.....	13
HPE Infrastructure ツリー.....	14
ダッシュボード.....	15
OneView Infrastructure ダッシュボード.....	15
OneView Networking ダッシュボード.....	15
OneView Servers Overview ダッシュボード.....	16
OneView Enclosures Overview ダッシュボード.....	17
OneView Uplink Ports Overview ダッシュボード.....	18
ヘルスアラート.....	19
ソフトウェアのインストールのトラブルシューティング.....	21
サーバープロファイルとネットワーク名が vROps HPE ダッシュボードに反映されない.....	21
デバッグログ.....	21
サポートと他のリソース.....	23
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	23
アップデートへのアクセス.....	23
Web サイト.....	24
カスタマーセルフリペア.....	24
リモートサポート (HPE 通報サービス).....	24
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	24
用語集.....	25

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。Hewlett Packard Enterprise は本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

はじめに

HPE OneView for VMware vRealize Operations は、パフォーマンス、キャパシティ、構成準拠、コストについて統合化された高度な自動管理ツールを vRealize Operations カスタム GUI に提供します。このソフトウェアは、標準の状態を分析する VMware の解析エンジンを使用し、そのベースラインを動的なサーバー環境に適用します。vRealize Operations については、<http://www.vmware.com/support/pubs/vcops-pubs.html> にある VMware vRealize Operations Enterprise ドキュメントを参照してください。

OneView for VMware vRealize Operations がインストールされると、カスタム OneView ダッシュボードが vRealize Operations カスタム GUI に追加されます。

OneView ダッシュボードを使用すると、vRealize 環境でリソースを監視することができます。監視可能な属性には、リソースのヘルス、電源、温度（サーバーおよびエンクロージャー）、およびシステムアラートが含まれます。解析エンジンにより、OneView リソース環境の予防型の監視が可能になり、リソースの状態が表示されます。問題が発生した場合は、アラートがトリガーされ、表示されます。解析エンジンでは予防的な予測も可能であり、リソースが事前定義された危険レベルに達する将来の時点を判別できます。

OneView for VMware vRealize Operations は、まず Standard 版をインストールできます。Standard 版をインストールすると、OneView ライセンスを取得するときに VMware vCenter Operations Advanced 版にアップグレードできます。詳しくは、[ライセンス適用](#)（10 ページ）を参照してください。

インストール

OneView for VMware vRealize Operations のインストール

始める前に

前提条件については、次の場所にある *vCenter Operations Manager vApp Deployment and Configuration Guide* を参照してください。

<http://www.vmware.com/support/pubs/vcops-pubs.html>

OneView for VMware vRealize Operations v2.1 は、VMware vRealize Operations バージョン 6.2.x、6.3.x、6.4 および 6.5、および OneView バージョン 2.0 以降および 3.0 と互換性があります。

インストール手順

❗ 重要:

OneView for VMware vRealize Operations v1.5 から v2.1 にアップグレードした後、OneView アダプターインスタンスごとに認証情報を再入力する必要があります。新しい認証情報の作成について詳しくは、[OneView for VMware vRealize Operations v2.1 へのアップグレード](#)を参照してください。

手順

1. OneView for VMware vRealize Operations を <http://www.hpe.com/info/ovvcenter> サイトからダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルを解凍します。
3. ブラウザーウィンドウを開き、vRealize Operations GUI に管理者ユーザーとしてログインします。
4. **vRealize Operation** のホームページから、vRealize Operations ツールバーにある**管理**アイコンをクリックします。
5. ソリューションタブが表示されます。

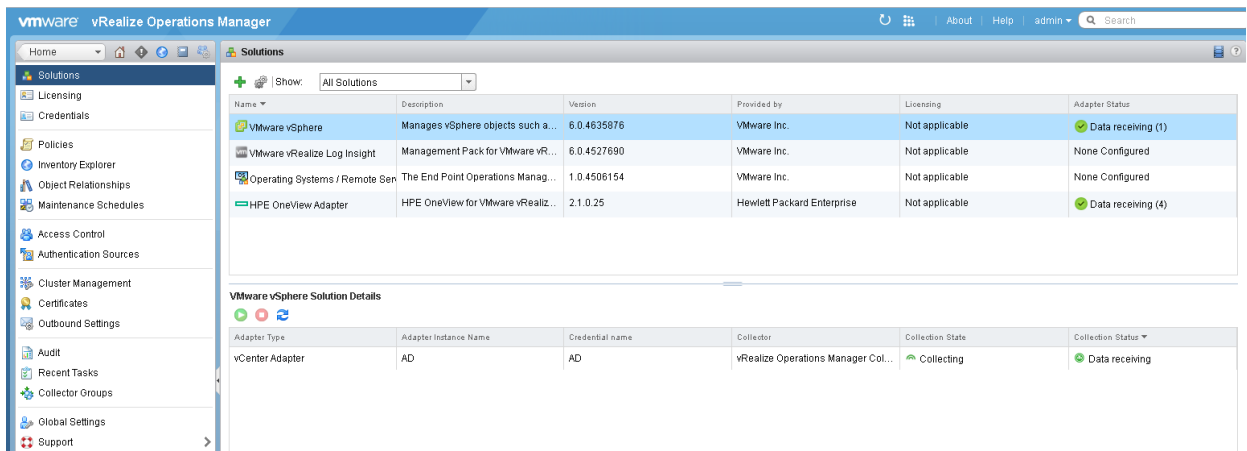


図 1: ソリューションホームページ

6. **+**をクリックします。
7. ソリューションの追加インストールダイアログボックスが表示されます。

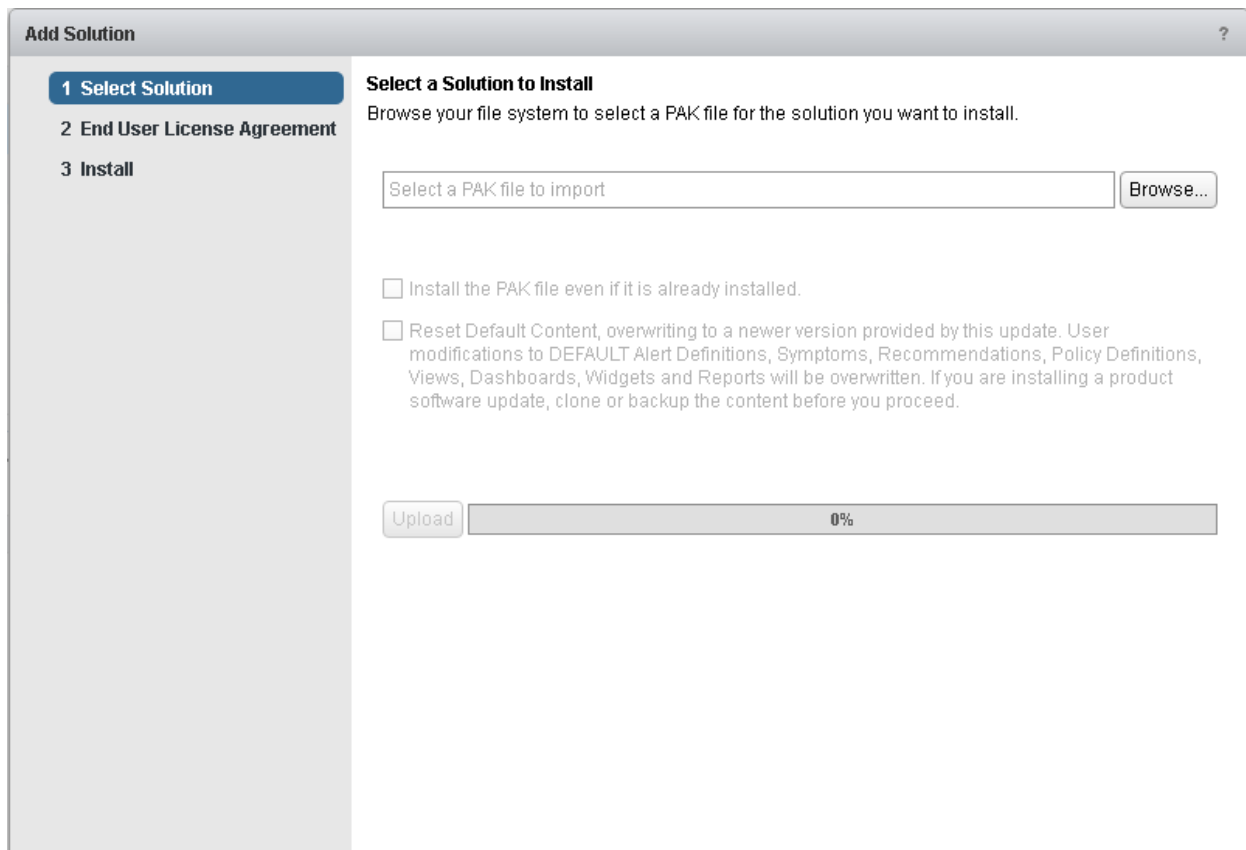


図 2: インストールするソリューションの選択

8. ソリューションを参照をクリックし、手順 2 で解凍されたファイルがある場所で HPEOneViewAdapter-x.x.x.pak ファイルを選択します。
9. アップロードをクリックして次に進みます。

注記:

.pak ファイルがアップロードされて、インストールする準備ができていることを示すメッセージが表示されます。

-
10. 次へをクリックして、EULA に進みます。

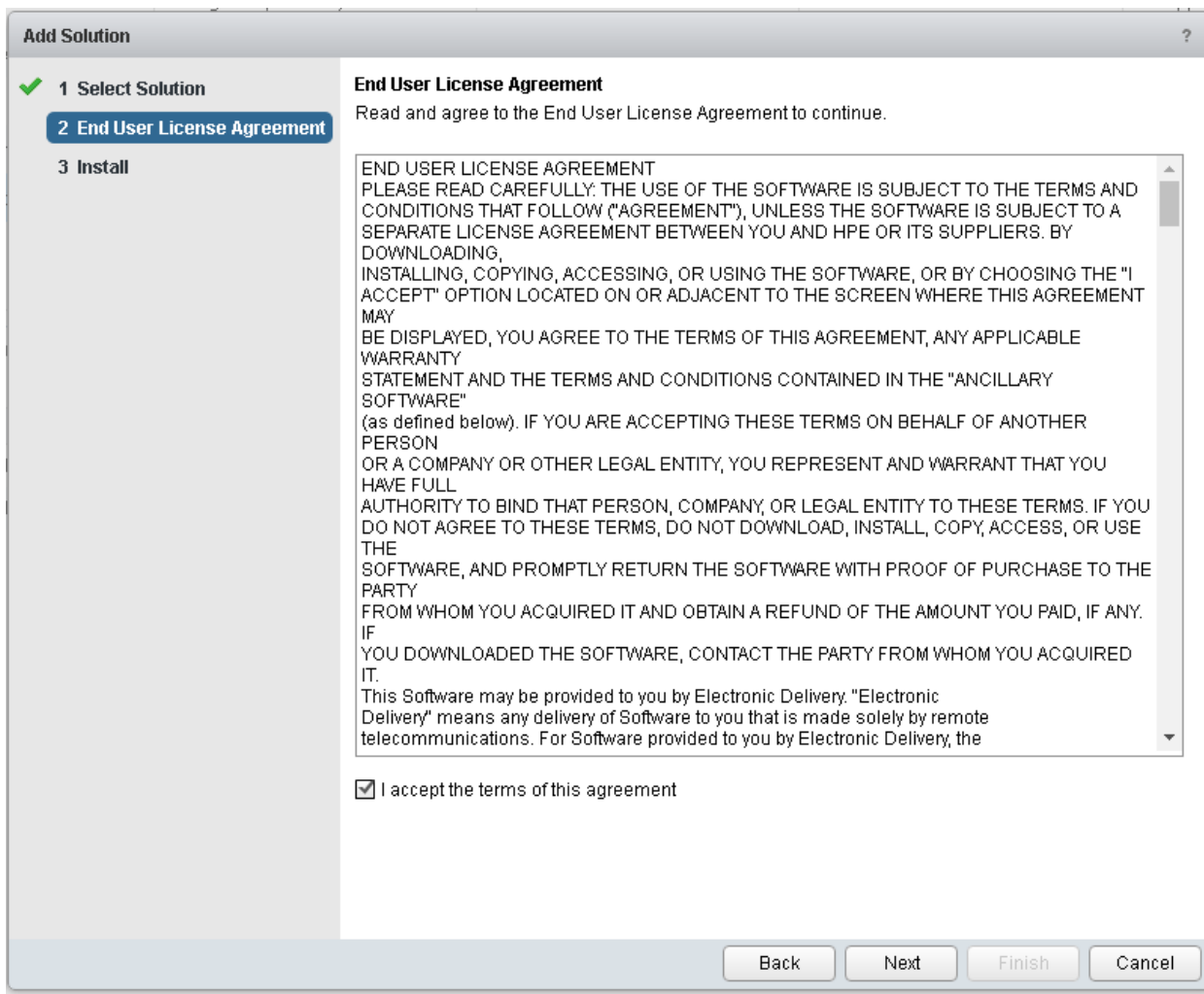


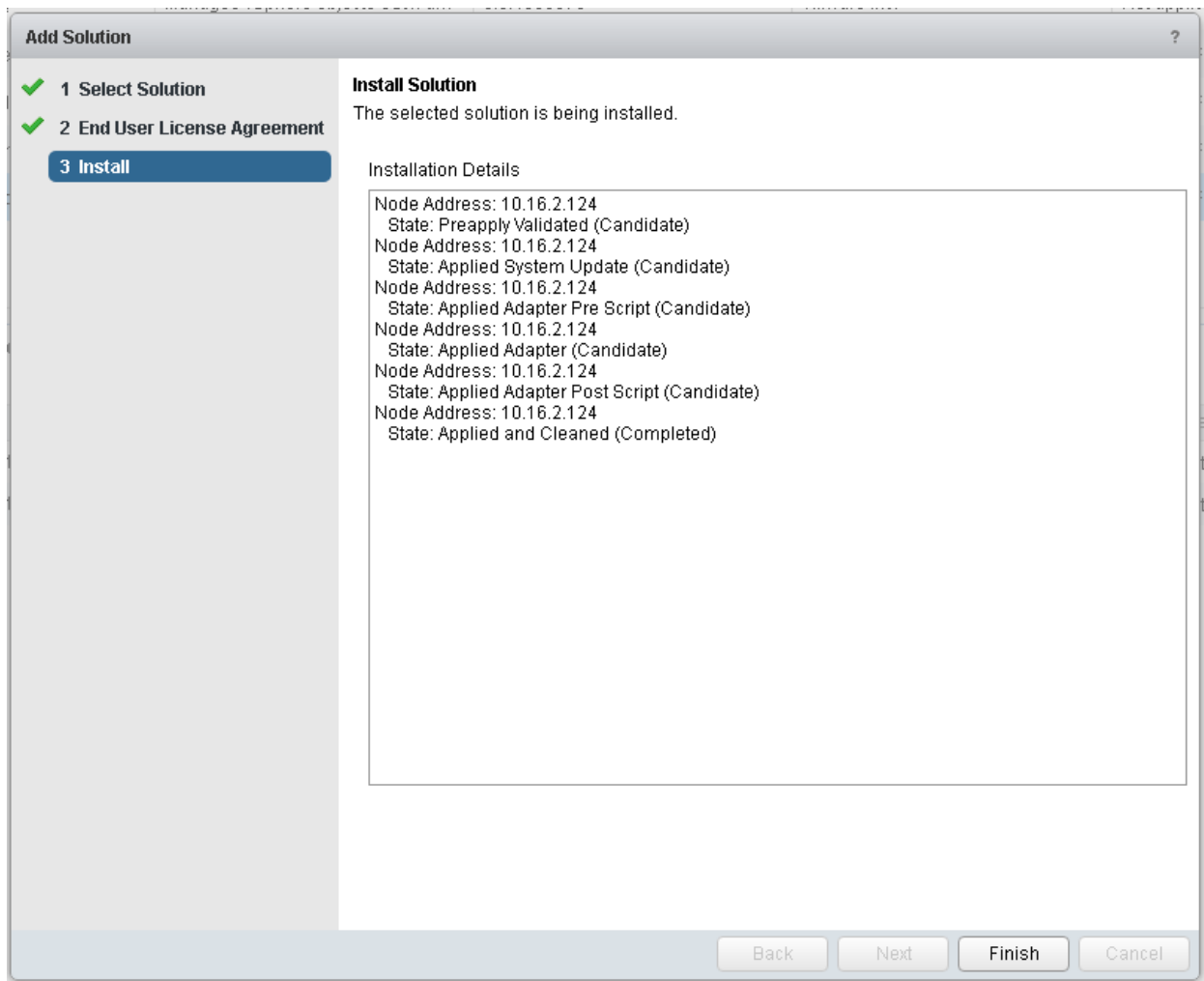
図 3: エンドユーザー使用許諾契約書

11. EULA に目を通し、契約に同意します。
12. 次へボタンをクリックして、インストール画面に進みます。

注記:

ファイルのインストール中にはインストールの詳細が表示されます。インストールは完了するまでに 30 秒ほどかかる場合があります。


13. インストールが正常に完了した後、完了をクリックします。



アダプタインスタンスの追加と構成

注記:

アダプタインスタンスは、環境内の OneView アプライアンスごとに作成する必要があります。

1. ソリューションタブのギア  をクリックします。
アダプタの設定が表示されます。

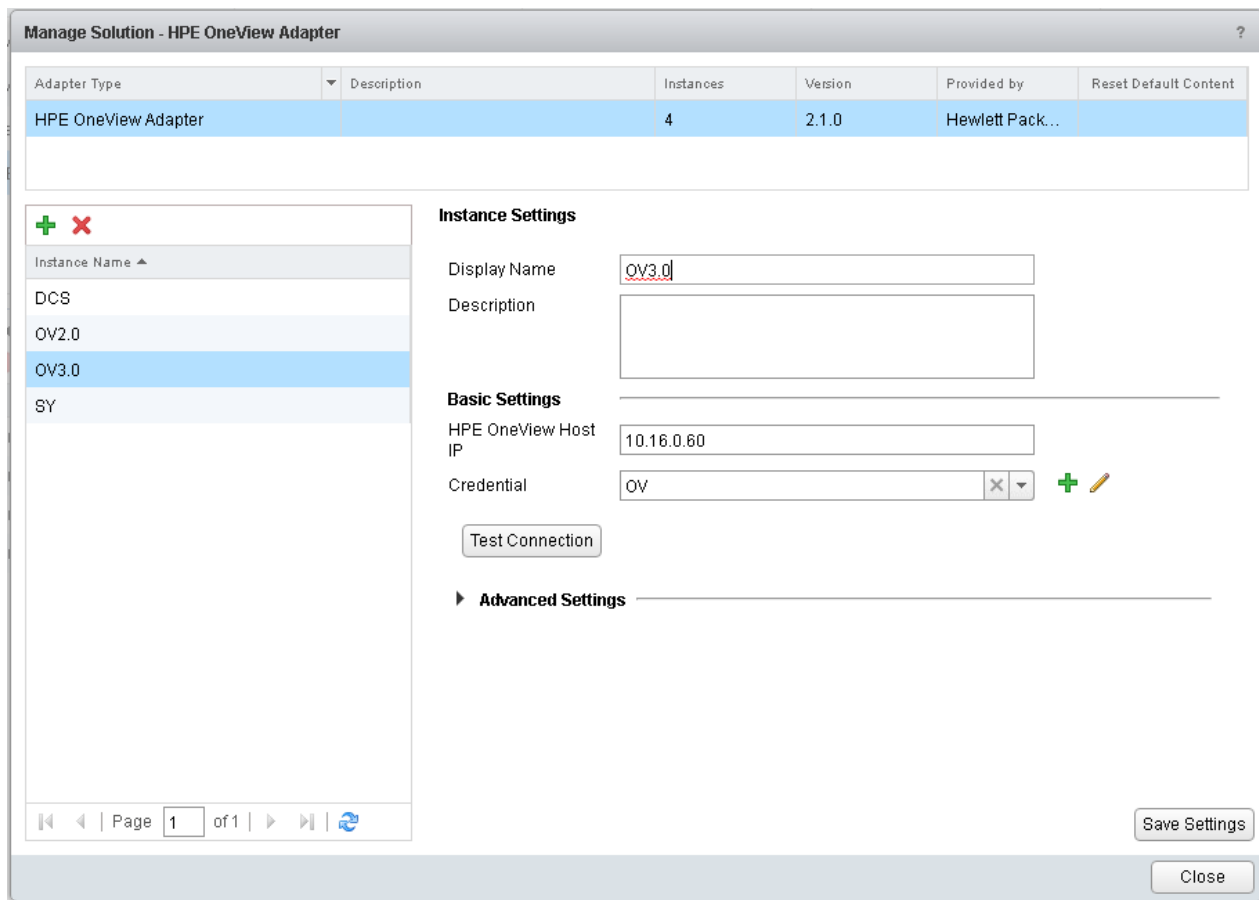


図 4: アダプタの設定

次の情報を入力します。

- a. **表示名** : 構成中の OneView アダプターインスタンスの名前。
- b. **説明** : OneView アダプターインスタンスの説明。
- c. **HPE OneView Host IP** : OneView ホストの名前または IP アドレスを入力します。
- d. **認証情報** : OneView 認証情報を追加するには、**+**をクリックします。
 - **認証情報名** : プロバイダー名
 - **HPE OneView Directory Name** : OneView のディレクトリ名を入力します

注記:

アップグレード後、前の認証情報用にディレクトリフィールドは表示されません。新しい認証情報の作成時に表示されます

- **HPE OneView User Name** : OneView アプライアンスのユーザー名を入力します
 - **HPE OneView Password** : OneView アプライアンスのパスワードを入力します
 - **vRealize User Name** : OneView for VMware vRealize Operations のユーザー名を入力します
 - **vRealize Password** : OneView for VMware vRealize Operations のパスワードを入力します
2. **接続をテストボタン**をクリックして、**パラメーターが正しいことを確認**します。

注記:

すべてのパラメーターが正確な場合、**テストが成功しました**というメッセージが表示されます。

3. **設定の保存ボタン**をクリックします。

OneView アダプターインスタンスが、**VMware vSphere ソリューションの詳細リスト**に表示されます。

アダプタは、リソースの収集を開始します。

注記:

このプロセスには最大 2 分かかる場合があります。

アダプタインスタンスの削除

OneView アダプターを選択し、削除アイコンをクリックすると、すべてのアダプタインスタンスおよび関連するオブジェクトが削除されます。

注記:

アダプタを削除することを確認する、確認ダイアログボックスが表示されます。

OneView for VMware vRealize Operations v2.1 へのアップグレード

OneView for VMware vRealize Operations バージョン 1.5 から 2.1 へのアップグレード中に、システムは OneView の認証情報を自動的に削除します。リソースの収集はアップグレード後も停止しています。リソースの収集を再開するようにアダプターの設定を構成するときに、新しい vRealize 認証情報を作成する必要があります。

新しい認証情報を作成するには、以下の手順に従ってください。

1. OneView および OneView for VMware vRealize Operations の認証情報が含まれる新しい認証情報セットを作成します。
2. OneView アダプターインスタンスのデータ収集を再度有効にします。

ライセンス適用

OneView for VMware vRealize Operations は、OneView Advance とともにライセンスが適用されます。この統合ソフトウェアおよび VMware vRealize Operations によって監視するホストごとに、OneView ライセンスが必要です。VMware vRealize Operations (Standard または Advance) も、VMware のライセンス適用ガイドラインに従ってホストごとに取得する必要があります。

OneView Advanced ライセンスを取得すると、Hewlett Packard Enterprise の VMware 統合ソフトウェアでの使用に限定された、VMware vRealize Operations Advanced 版用の VMware vRealize Operations パートナー アクティベーションコード (PAC) が提供されます。この PAC を、購入したバージョンの VMware vRealize Operations に適用すると、Hewlett Packard Enterprise の統合ソフトウェアを使用することができます。

ライセンスが Hewlett Packard Enterprise の統合ソフトウェアの使用に限定されているため、他社製の統合ソフトウェアまたは VMware vRealize Operations のその他の拡張機能を使用する必要がある場合は、VMware vRealize Operations 用の Advance ライセンスを購入する必要があります。

<http://www.vmware.com/code/hp> の VMware ポータルでパートナーアクティベーションコード (PAC) を登録し、必要なライセンスを取得します。登録すると、Hewlett Packard Enterprise の VMware vRealize Operations 統合ソフトウェアを使用できます。VMware vRealize Operations Advanced 版のその他の機能は、同意済みの EULA に従い、使用できません。






VMware vRealize Operations を使用している場合、この PAC を取得したり、追加のライセンスを適用する必要はありません。OneView for vRealize Operations を直接ダウンロードすることをおすすめします。特別なライセンスを適用する必要はありません。<http://www.hpe.com/info/ovvcenter> で、最新バージョンをダウンロードしてください。

注意事項








すべてのリソースで報告される指標

リソースによって報告される指標を **OneView リソースで報告される指標** の表に示します。







表 1: OneView リソースで報告される指標

リソース	報告される指標	HPE ウィジェットのアイコン
HPE DATACENTER	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE RACKS	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE ENCLOSURE	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 電力使用率 (W) 温度の使用率 (c) 電力容量 (w) 温度容量 (c) 電力使用率 (%) 温度の使用率 (%) 	
HPE SERVER HARDWARE	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 電力使用率 (W) 温度の使用率 (c) 電力容量 (w) 温度容量 (c) 電力使用率 (%) 温度の使用率 (%) CPU 使用率 (%) CPU 速度 (GHz) iLO IP アドレス モデル 電力の状態 シリアル番号 状態 タイプ 	
HPE SERVER PROFILE	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	

表は続く

リソース	報告される指標	HPE ウィジェットのアイコン
HPE CONNECTION	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE NETWORK	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE NETWORK SETS	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE Logical Enclosure	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE LOGICAL INTERCONNECT	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE INTERCONNECT	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE UPLINKPORT	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス アップリンクポートステータス 受信したパケット 受信した非ユニキャストパケット 受信したキロビットパケット 受信したキロバイトパケット 送信したパケット 送信した非ユニキャストパケット 送信したキロビットパケット 送信したキロバイトパケット ポートの容量 受信使用率 送信使用率 	

表は続く

リソース	報告される指標	HPE ウィジェットのアイコン
HPE DOWNLINK PORT	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス ダウンリンクポートステータス 受信したパケット 受信した非ユニキャストパケット 受信したキロビットパケット 受信したキロバイトパケット 送信したパケット 送信した非ユニキャストパケット 送信したキロビットパケット 送信したキロバイトパケット ポートの容量 受信使用率 送信使用率 	
HPE FAN	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE POWER SUPPLY	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE STORAGE POOL	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE STORAGE SYSTEM	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	
HPE STORAGE VOLUME	<ul style="list-style-type: none"> ヘルス 	

HPE Networking ツリー

HPE Networking ツリーは、関連付けられたネットワークに従って、Hewlett Packard Enterprise のオブジェクトをグループ化します。

Networking ツリーは、接続が関連付けられている Hewlett Packard Enterprise の接続、ネットワーク、およびアップリンクポートのリストを示しています。

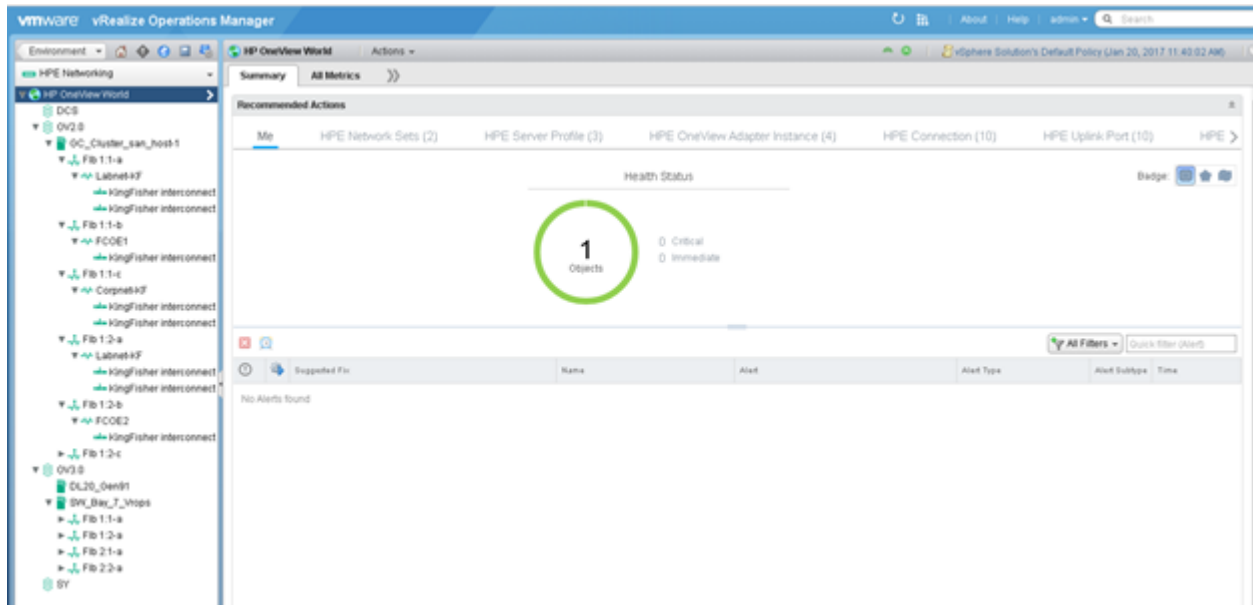


図 5: Networking ツリー

HPE Infrastructure ツリー

HPE Infrastructure ツリーは、関連付けられたインフラストラクチャに従って、Hewlett Packard Enterprise のオブジェクトをグループ化します。

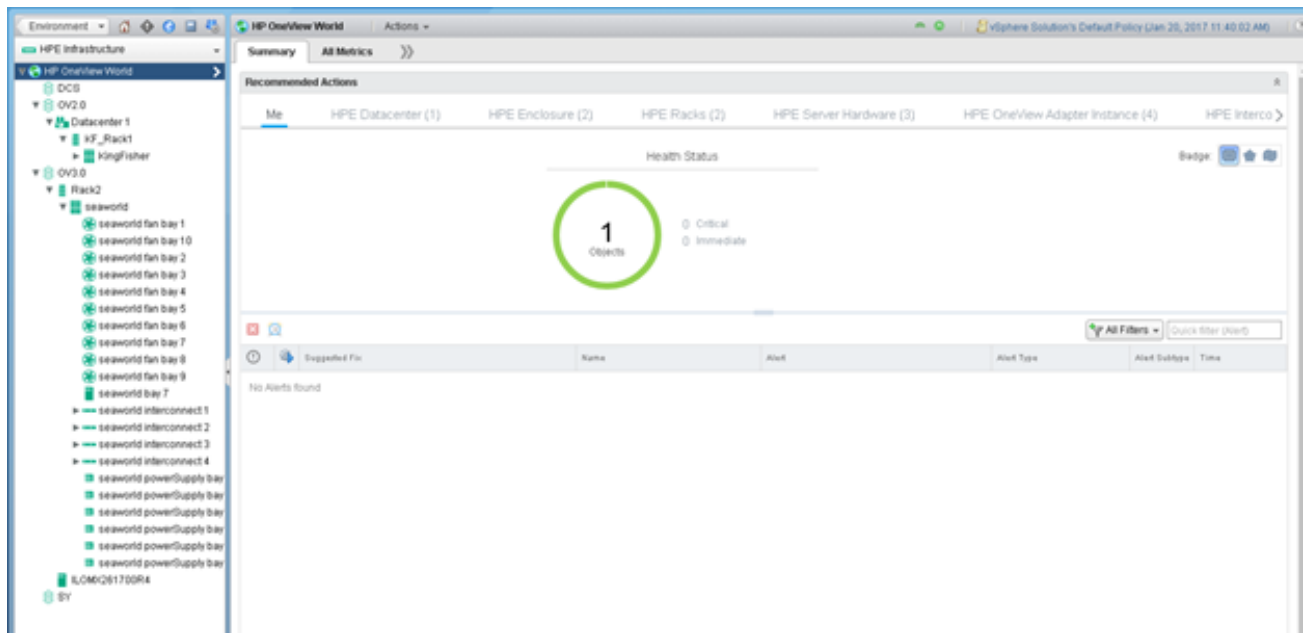


図 6: Infrastructure ツリー

ダッシュボード

ダッシュボードは、レポートと指標の概要を提供するウィジェットの集合です。ダッシュボードを使用すると、一度に多くの指標を監視できるため、迅速にリソースのヘルスを調べることができます。ダッシュボードは簡単に作成、カスタマイズ、および共有できます。

使用できるダッシュボードを以下に示します。

- [OneView Infrastructure ダッシュボード](#)
- [OneView Networking ダッシュボード](#)
- [OneView Servers Overview ダッシュボード](#) (16 ページ)
- [OneView Enclosures Overview ダッシュボード](#) (17 ページ)
- [OneView Uplink Ports Overview ダッシュボード](#) (18 ページ)

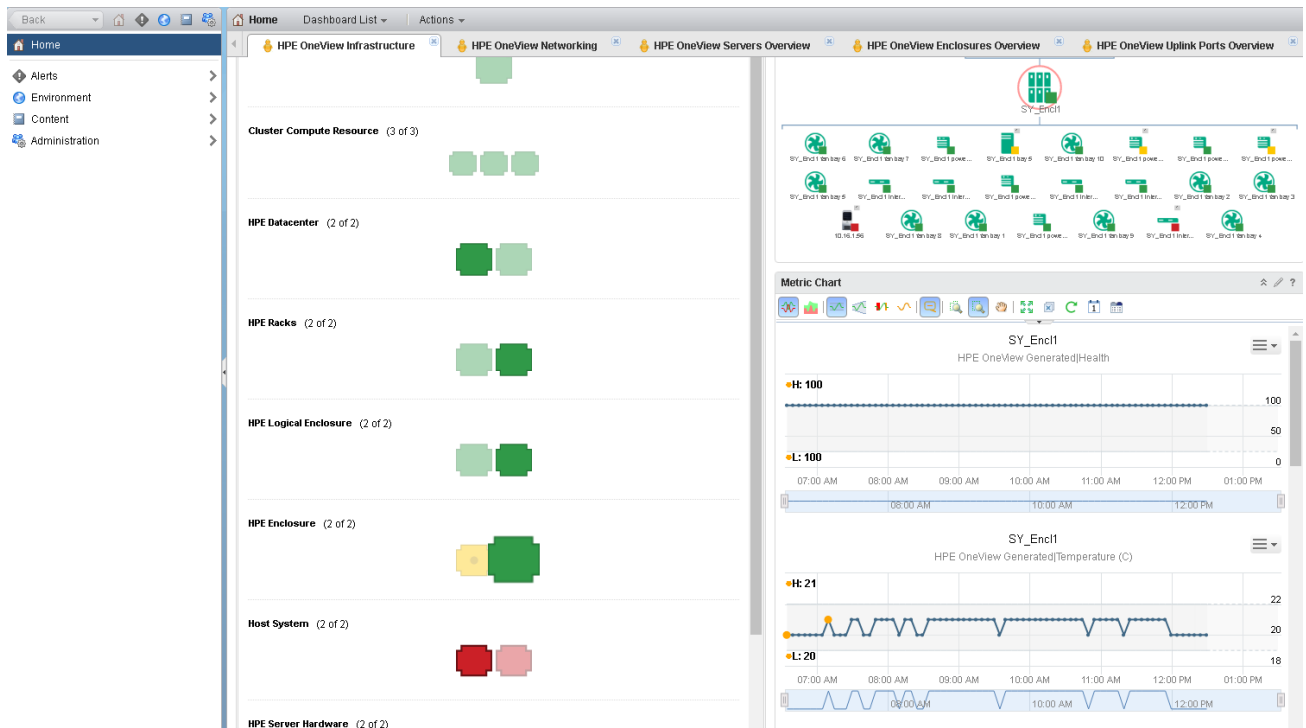
HPE ダッシュボードは、タブとして、ホームページまたはダッシュボードメニューから使用できます。

OneView Infrastructure ダッシュボード

OneView Infrastructure ダッシュボードは、OneView ハードウェアインフラストラクチャ全体の概要を示します。このダッシュボードには OneView 管理対象ハードウェアのステータスが表示されるので、ハードウェアが仮想環境にどのように関係しているかについても確認できます。各ハードウェア用に収集されているすべての指標に迅速にアクセスできます。

Environment Overview 内のオブジェクトを選択すると、このオブジェクトが他のオブジェクトにどのように関係しているかを確認することができ、また収集した指標ごとにグラフが生成されます。

次の図に、標準の OneView Infrastructure ダッシュボードおよび強調表示したエンクロージャーとそのオブジェクトを示します。

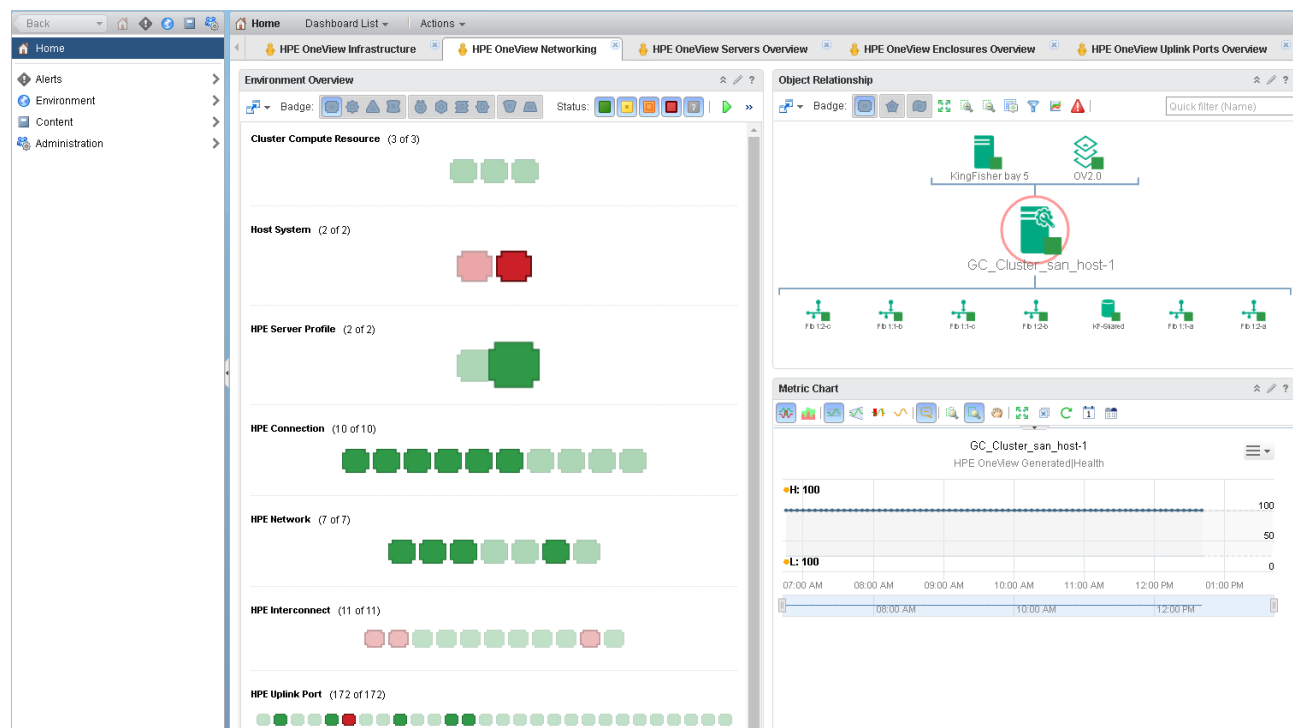


OneView Networking ダッシュボード

OneView Networking ダッシュボードは、OneView のネットワーキングの概要および仮想環境への接続を示します。

Environment Overview 内のオブジェクトを選択すると、このオブジェクトが他のオブジェクトにどのように関係しているかを確認することができ、また収集した指標ごとにグラフが生成されます。

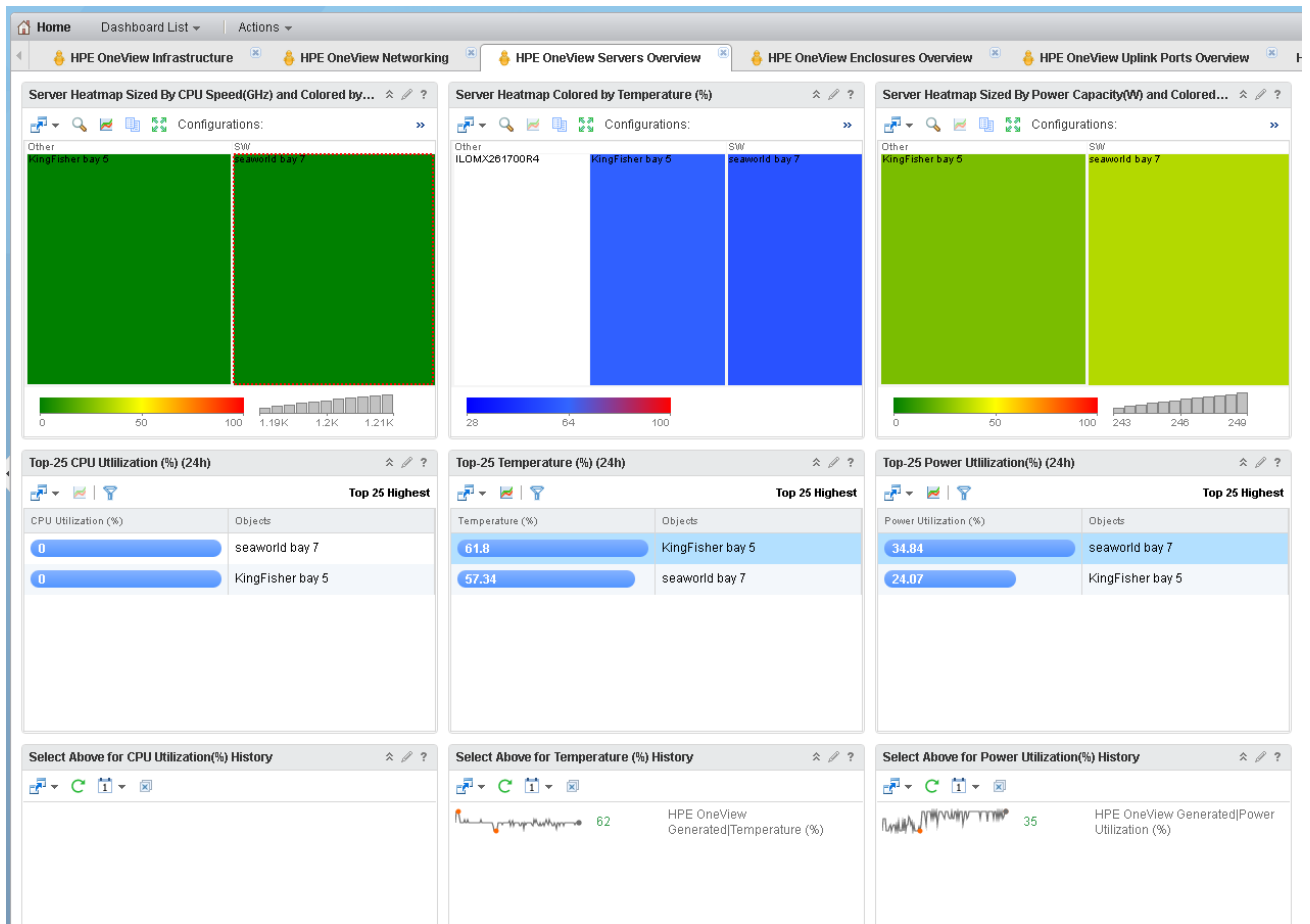
次の図に、標準の OneView Networking ダッシュボードおよび強調表示したサーバプロフィールと関連するホストシステム、HPE Connection、およびその他のオブジェクトを示します。



OneView Infrastructure ダッシュボードおよび OneView Networking ダッシュボードは、ダッシュボードのナビゲーションアイコンを介してリンクされます。ダッシュボードページの Environment Overview ウィジェットにあるアイコンを使用すると、一方のダッシュボードのコンテキストをもう一方のダッシュボードに移動して適用できます。

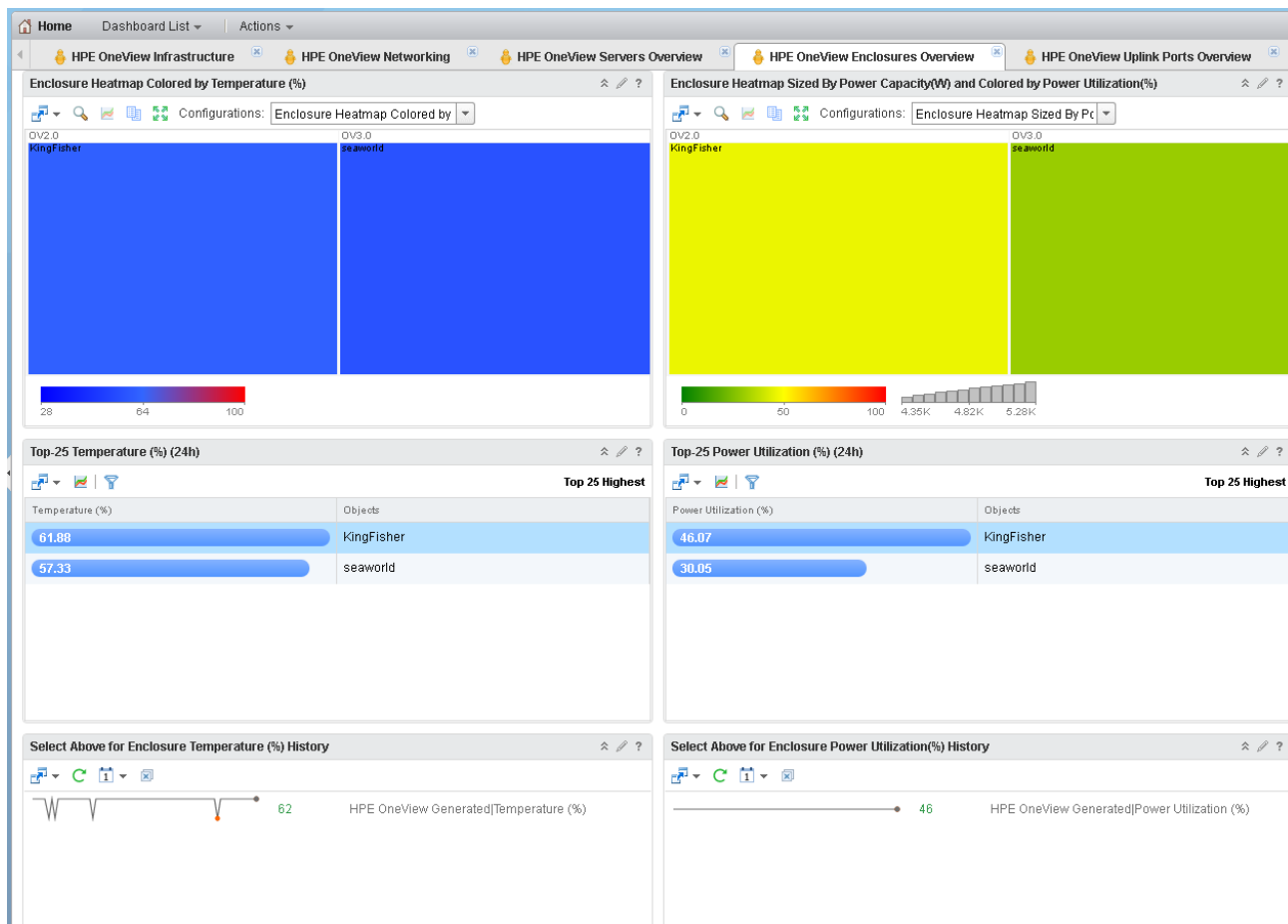
OneView Servers Overview ダッシュボード

OneView Servers Overview ダッシュボードは、Hewlett Packard Enterprise のサーバーの CPU 使用率、温度、および電力使用率に関する概要と指標の情報を提供します。ヒートマップを使用して、これらの指標をすばやく比較できます。各ヒートマップの下に、使用率が高い上位 25 のサーバーのリストが表示されます。このリストからサーバーを選択すると、指標の履歴が表示されたスパークライングラフが生成されます。



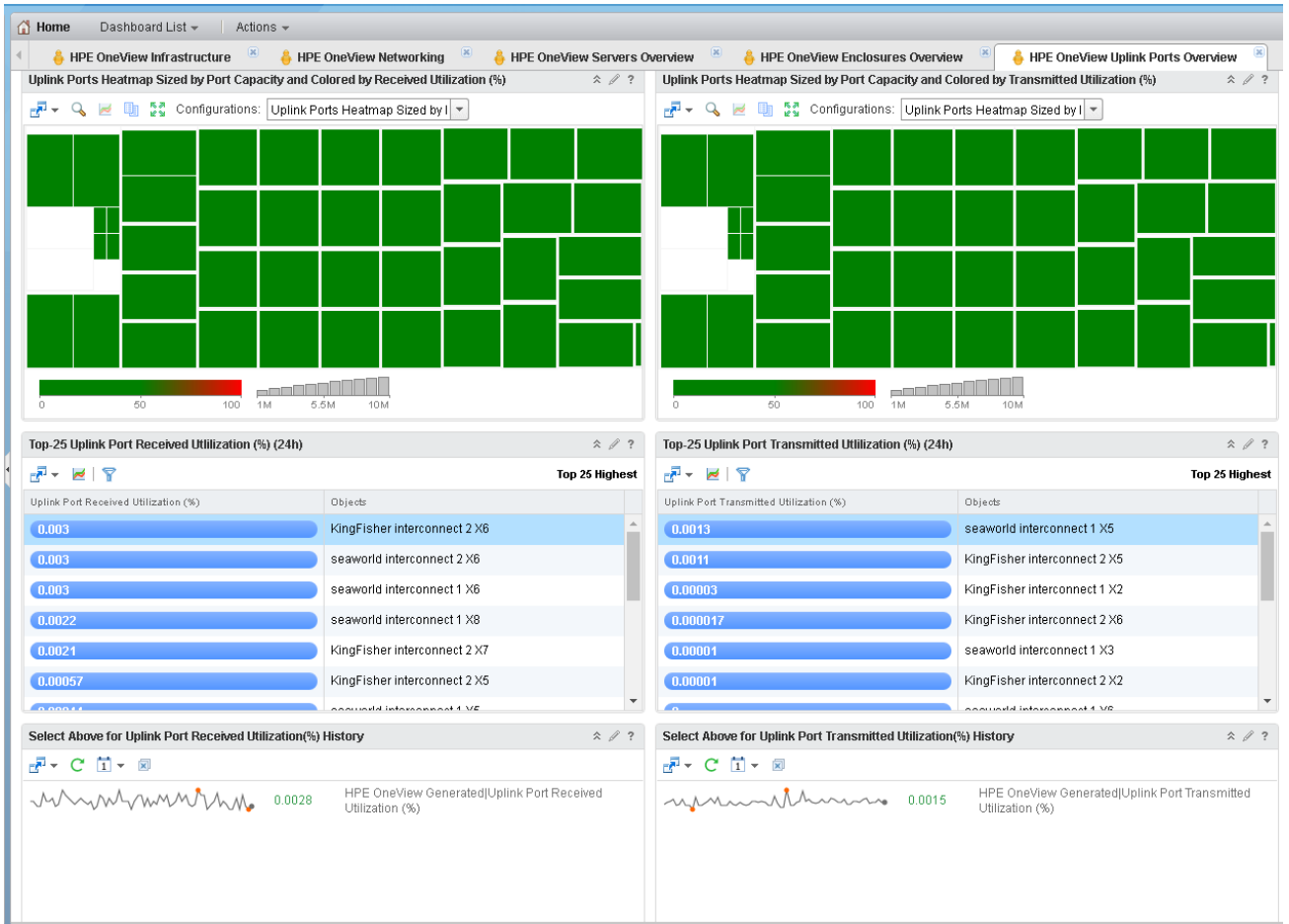
OneView Enclosures Overview ダッシュボード

OneView Enclosures Overview ダッシュボードは、HPE ブレードエンクロージャーの温度と電力使用率に関する概要と指標の情報を提供します。ヒートマップを使用して、これらの指標をすばやく比較できます。各ヒートマップの下に、使用率が高い上位 25 のエンクロージャーのリストが表示されます。このリストからエンクロージャーを選択すると、指標の履歴が表示されたスパークライングラフが生成されます。



OneView Uplink Ports Overview ダッシュボード

OneView Uplink Ports Overview ダッシュボードは、エンクロージャーのアップリンクポートのインバウンド/アウトバウンド帯域幅使用率の概要を提供します。ヒートマップを使用して、これらの指標をすばやく比較できます。各ヒートマップの下に、使用率が高い上位 25 のポートのリストが表示されます。このリストからポートを選択すると、指標の履歴が表示されたスパークライングラフが生成されます。



ヘルスアラート

OneView のステータス、警告、および Critical アラートは、ヘルスアラートとして vROps に転送されます。OneView の劣化ステータスにより、vROps でアラートがトリガーされます。OneView 内の個々の警告やアラートメッセージは、通知イベントおよび症状として vROps に表示されます。これらの症状にはステータスに関する詳細な情報が含まれており、推奨される解決策があれば表示されます。

エンクロージャーに関連するすべてのアラートのリストが表示されます。

リスクアラート

OneView リソースのリスクアラートに、トリガーされるアラートと、OneView 指標に基づいて計算された指標を示します。

表 2: OneView リソースのリスクアラート

リスクの症状	しきい値	アラートタイプ
エンクロージャーの電力使用率	95%	Critical
エンクロージャーの電力使用率	80%	Warning
アップリンクポートの受信使用率	95%	Critical

表は続く

リスクの症状	しきい値	アラートタイプ
アップリンクポートの受信使用率	80%	Warning
アップリンクポートの送信使用率	95%	Critical
アップリンクポートの送信使用率	80%	Warning
ダウンリンクポートの受信使用率	95%	Critical
ダウンリンクポートの受信使用率	80%	Warning
ダウンリンクポートの送信使用率	95%	Critical
ダウンリンクポートの送信使用率	80%	Warning

効率アラート

現在、OneView アダプターは効率アラートを vROps にトリガーしません。

ソフトウェアのインストールのトラブルシューティング

サーバープロファイルとネットワーク名が vROps HPE ダッシュボードに反映されない

対処方法

- ユーザーは、オブジェクト名を元の名前に戻すことができます。
- ユーザーは、既存のオブジェクトを削除して、次のサイクルでアダプタにオブジェクトの新しい名前を選択させることができます。
- ユーザーは、**PING** ユーティリティを使用して、欠落している OneView アプライアンスへのネットワーク接続を確認できます。

デバッグログ

デバッグログは管理者にとって有益なツールです。これは発生する可能性がある問題のトラブルシューティングに役立ちます。

このセクションでは、OneView for VMware vRealize Operations アダプターでデバッグログを有効または無効にする方法について説明します。

注記:

デバッグログは、デフォルトで無効になっています。

デバッグログを有効にするには、以下の手順に従ってください。

手順

1. OneView for VMware vRealize Operations Manager ユーザーインターフェイスに管理者権限でログインします。
2. **管理**タブをクリックして、**サポート** > **ログ**をクリックします。
3. **グループ**ドロップダウンメニューから**ログタイプ**を選択します。
4. **Collector** フォルダーを展開します。
5. Hewlett Packard Enterprise のアダプタインスタンスが実行されているノードを選択してから、**プロパティの編集**をクリックします。
6. **+**をクリックします。
7. ダイアログ入力ボックスにテキスト `com.hp` を追加します。**OK** をクリックします。
8. ロガーレベル列で `com.hp` のロギングレベルをクリックします。ドロップダウンメニューが表示されません。
9. ドロップダウンメニューから**デバッグロガー**レベルを選択します。

注記:

ログファイルが肥大化するのを防ぐために、デバッグログ機能は短い時間に限定してください。

10. **OK** をクリックして、変更を保存します。

デバッグログを無効にするには、以下の手順に従ってください。

1. OneView for VMware vRealize Operations Manager ユーザーインターフェイスに管理者権限でログインします。
2. **管理**タブをクリックして、**サポート** > **ログ**をクリックします。
3. **グループ**ドロップダウンメニューから**ログタイプ**を選択します。
4. **Collector** フォルダーを展開します。
5. Hewlett Packard Enterprise のアダプタインスタンスが実行されているノードを選択してから、**プロパティの編集**をクリックします。
6. ロガーレベル列で `com.hp` のロギングレベルをクリックします。ドロップダウンメニューが表示されます。
7. ドロップダウンメニューから**警告**ロガーレベルを選択します。
8. **OK** をクリックして、変更を保存します。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

必要な情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、およびシリアル番号
- オペレーティングシステム名とバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートとログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品は、製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするメカニズムを備えています。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨される更新方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。

- Hewlett Packard Enterprise サポートセンターのメールニュース配信登録ページ：

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- Software Depot の Web サイト：

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の権利付与情報が必要になる場合があります。関連する権利付与情報を使って HP パスポートをセットアップしておく必要があります。

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	http://www.hpe.com/support/hpesc
Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide	http://www.hpe.com/assistance
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot
カスタマーセルフリペア	http://www.hpe.com/support/selfrepair
Insight Remote Support	http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs
Serviceguard Solutions for HP-UX	http://www.hpe.com/info/hpux-serviceguard-docs
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス	http://www.hpe.com/storage/spock
ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート	http://www.hpe.com/storage/whitepapers

カスタマーセルフリペア

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

CSR について詳しくは、お近くのサービスプロバイダーにお問い合わせになるか、次の CSR の Web サイト (<http://www.hpe.com/support/selfrepair>) を参照してください。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

デバイスサポートについて詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

用語集

vAPP 仮想マシンの集合

VM 仮想マシン

vROps vRealize Operations